

おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

今月の読み物

◇1～3面 日本 AALA 定期大会の報告
 ◇4～5面 ニジェルのお話 ◇6面 AALA カフェの報告
 ◇7面 夢洲万博・カジノはいらない
 ◇8面 常任理事会・理事会、英語で世界を読む会のお知らせ、川柳

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F
 2023年 11月1日 No. 609



定期大会の様子 (東京労働会館ホール)

大変革の時代を迎えた世界

日本AALA第56回定期大会の報告

日本AALAの第56回定期大会が9月30日から10月1日まで東京で開催され、大阪AALAから6名が参加しました。

定期大会は2年ごとに開催されますが、2年前の2021年はコロナ禍でオンライン併用の大会となりましたので、参加者が全員対面で開催されたのは4年ぶりです。

大会では、はじめに開会宣言があり、議長と資格審査委員の選出のあとで吉田万三代表理事から、世界情勢が大転換を迎えた時代の中でAALAの活動を大いに進めていこうとの開会あいさつがありました。その後、大会役員選出とメッセージの紹介がありました。海外から7カ国、国内の18の

団体から寄せられました。

大会議案は、田中靖宏・野本久夫代表理事から説明があり、会計は箱木事務局長から報告がありました。

その後、全体討論に移り、翌日も含め27名の発言がありました。その中で大阪AALAからは4名が発言し、それぞれがインパクトのある発言で大阪AALAの存在感を示していました。

一日目の大会終了後には「秋庭稔男さんを偲ぶ会」が催され、AALA運動に情熱をかけた秋庭さんの業績と人間性を偲びました。そして、AALAの運動を引継ぎ、発展させていくことをみんなで語り合いました。(記：粕谷)

大会での主な発言は2～3ページにあります

日本AALA 56回大会 報告

大阪AALA
姫野新理事長の発言

大阪の姫野でございませう。今年のおおさかAALAの大会で理事長に選出されたばかりのニューフェイスであります。日本AALAの大会でも始めて発言させていただきますが、3つあります。

一つは「大変革の時代を迎えた世界」と見出しを付けた情勢論についてであります。大会議案にあるように、アメリカのバイデン政権による軍事プロロク強化政策は各地で行き詰まりつつあり、一方でグローバルサウスと非同盟運動は、いまや国際政治を大きく動かす勢力に成長していることは明らかであります。グローバルサウスの声サミットでは「南の声を結集して、新しい世界秩序を



目指す」との力強い決意が表明されました。そしてこの非同盟諸国が中心になって遂に国連で核兵器禁止条約を成立させ、いまや核兵器大国の前に立ちふさがっている形相であります。

このような世界の大変革の動きに対し、私たちは大いに確信をもつとともに、非同盟諸国の連帯運動を進めてきた我がAALAの運動の役割にも大いなる確信をもつことができると思います。世界の動きは複雑でわかりにくく見えますが、大きな流れは戦争と軍事プロロク強化ではなく、各国の独立と主権を守り、平和をめざす運動の前進へ

と向かっていることを示しています。この激動する世界の躍動をAALA会員の確信にしてゆきたいものと思えます。

二つ目に、わがAALAの当面する運動の具体的テーマについてであります。議案書では大きく5つの課題をかかげていますが、これらの課題の中で差し当たって運動のテーマとなるものは何か、運動化しやすいものは何かを見出すことが必要であると思えます。今年10年目を迎えるASEAN議長国への「戦争するなどの国も」国際署名運動は大きな力を発揮し、会員の自覚を高めたAALAの評価も広げました。

この運動はさらに発展させるとともに、私は新たに来年1月に開催される第19回非同盟首脳会議へ向けた署名運動を進めてはどうかと考えます。何をとり上げるか。私は地球温暖化による異常気象と食料の絶対的不足の危機などは欠かせないと思えます。これ等の運動は、私たちAALAの会員が世界の

激動の中で「この運動ならやってみよう」というテーマとなるものであり、AALA全体で取り組むという運動テーマに押し上げていくこととなります。わがAALAはよく学習もするがよく運動もする大衆組織として発展させていくではありませんか。



最後に、AALAの組織拡大と支部づくりについてであります。大阪でも会員の高齢化と職場会員の減少で会員数は減少を続けています。大阪AALAでは、役員が先頭に「声掛け運動」を進めています。まだ前進方向を切り開いてはいません。

私は大阪において会員拡大を進めるカギは、地域と職場での支部づくりではな

いかと考えています。AALAの会員は学習するにも意見を述べるにも非常に機会が限られています。そこで市区町毎に支部をつくり府本部役員も参加して大いに話ができる場所をつくらうと計画しています。差し当たって市区町毎に準備会をつくりたいと思えます。大阪AALAはむつかしいところではなく、世界のことがよくわかり、なんでも語れる楽しいところにぜひしていきたいものと考えています。皆さんと共に頑張りたいと思えます。

大会1日目終了後には秋庭さん(元日本AALA理事長)を偲ぶ会が開催されました



日本AALA大会

大阪の代議員の発言

報告

西野 敏恵さん

大阪AALAでは「AALAカフェ」という茶話会的な勉強会を行っています。8月に開催したAALAKaフェでは、ニジエールで医療活動に生涯をささげた谷垣医師とその妻の描いた絵のことについて、JICAの山形氏に話をしてもらいました。

大学の先輩でもある谷垣さんはJICAの要請で医師としてニジエールに赴任し、一緒に行った奥様の静子さんは絵の趣味があったので、ニジエールの風景や人物、静物画などを描いていました。しかし、静子さんは1997年5月病死して、その地に埋葬されました。谷垣医師は2017年3月に現地で亡くなりますが、その頃ずっといっしょにいたのが山形さんだったのです。



大会終了後、近畿のAALA（愛知も含めて）で交流の場を持ちました

「日本で静子の作品展を開いてほしい」との谷垣医師の遺言を聞き、彼は実行したので。こんな経過があつて、静子さんの書いた100枚近い絵は、今私のところにあります。しかし、私個人ではいつまでも保管できません。全国のAALAの仲間にその絵をもらっていたら、谷垣医師とその奥様のアフリカへの思いに触れていただきたいと思つています。

上村 得世さん

AALAにとって会員拡大が一番の課題です。大阪AALAでも会員の高齢化によつて、活動ができなくなり退会する人や死亡による退会者が増えており、いかに会員を増やすか頭を悩ませています。

近畿ではAALAの連絡会があり、共同の取り組みを行つたりして会員の拡大に結びつけてきました。しかし、ここ数年コロナ禍により集まっていなかった連絡会を再開し、活動の広がりをつくりたいのです。

また、AALAのない滋賀県と和歌山県にぜひAALAをつくりたいのですが、活動を担ってくれるような人材が見つからないのです。豊富な人のつながりや情報を持つ日本AALAに人物の紹介をしてもらうなど協力をお願いしたいと思つています。

安井 倫子さん

退職後の道を探して、大学院に社会人入学し、今、アメリカ現代史を勉強しながらおしています。その中で、大阪外大の先輩方が、大阪AALAでやっておられた「英語で世界を読む会」に誘われて参加し、AALAに入会しました。

今日は二つのことを言いたいのです。

一つは、内外情勢について「大変革の時代」という現状分析です。目からうろこ、背筋が伸びました。

昨今、コロナや気候変動を含め、社会、政治の状況は、日本も、アメリカも、世界も・先行きの見えな、わからない状態です。「CRISIS」という英語があり、危機とも訳せますが、「大転換」「変革」でもあります。一方にとっては危機でも、地殻変動を起こしている新しい勢力にとっては「CHANCE」です。

グローバル・サウスを含む非同盟諸国は新しい世界秩序を模索しています。アメリカではZ世代と呼ばれる人びとの変革の意識は高く、政治を変える力になっています。

もう一つは、「学ぶこと」の大切さです。大阪AALAもこのことを重視して、AALAKaフェや私たちの「読む会」などを続けています。でも、まだまだ足りないと思ひます。「読む会」は、「英語」という異なる言語を通して世界を見ることによつて、異なる考え方や見方が広がるという作用があります。私たちシニアには、うってつけの「栄養剤」です。

私は日本AALAのこの大会でいっぱい学び、栄養剤を頂きました。私も明日から、元気を出して、「戦争するな」の署名を、ちょっと元気のない日本の若者たち、私の大学の「学友」にも広めようと思ひます。

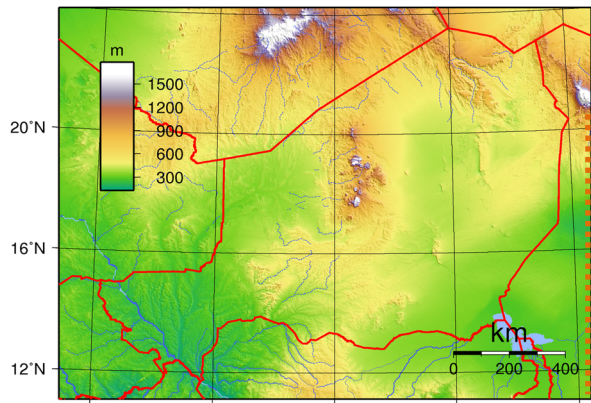
元 JICA ニジェール支所長 山形 茂生 さんの

ニジェール の地理・政治 経済と谷垣夫妻 のお話 その1



8月に大阪 AALAの事務所で、ニジェールについてお話する機会をいただきました。3年2カ月のJICAニジェール支所勤務を終えて2019年に帰国し、4年経ちましたが、その後ニジェールは大きく変化していると聞いています。街の中は整備され、空港はきれいになり、一方つい最近軍事クーデターが起きたというニュースが日本の中でも取り上げられました。そういった変化に追いつけてはいませんが、ニジェールについてお知りになりたいというご要望に、多少なりともお役に立てればと思います。8月の話から内容を大きくは変えていませんが、若干取捨選択したことをお許しください。

全人口は2020年時点で2400万人（日本の19%）で、人口密度は日本の20分の1程度の1平方キロメートル当たり19人程度である。人口増加率は3.8%、と極めて高い。主な居住地は国の南縁、ニジェール川沿いと、ブルキナファソ、ベナン、ナイジェリアと接する国境一帯の、雨量が比較的多い東西に伸びる帯状地帯に偏在している。



国土概要

ニジェールは、アフリカ大陸の北半分に位置する内陸国だ。国土面積は約127万平方キロメートルで、日本のおおよそ3.4倍。その大部分がサハラ砂漠に覆われ、国土面積に占める砂漠の割合は、3分の2とも、5分の4ともいわれている。

国名の由来となるニジェール川は、南西の隅を360km程度流れるに過ぎない。川の大部分は、上流側は西隣のマリ共和国、下流側は南接するナイジェ

リア連邦共和国を流れている（ちなみに「ナイジェリア」もニジェール川の英語読み由来する）。
民族の中で一番多いのは、ナイジェリア国境に住むハウサ人で、全人口の半分強を占める。ナイジェリアがハウサ人の主な分布地域で、ニジェールにも連続して居住しているということだ。彼らの話す言語はエチオピア人やアラブ人と言語学的には同族のアフロ・アジア語族で、東方の祖先の地を約8千年前に離れて西進してきたと論じられている。
次に多いのは、ニジェール川沿いに分布するザルマ人で、人口の約20%を占める。言語的には、今はサハラ砂漠の砂の下に埋まる場所で誕生した可能性のある、ナイル・サハラ語族で、南スーダンのデインカ人やケニア・タンザニアに住むマサイ人と祖先を共通にしている。
次はトアレグ人で、約10%。彼らもアフロ・アジア人なのだが、ハウサ人とは違い、祖先の地からいったん北上し、地中海岸に平行に西進したベルベル人と兄弟の関係にあり、アトラス山脈南縁地域を4〜5世紀頃に発ち、ラクダや羊の遊牧を営みながら砂漠を南下してきた。
かつてはサハラ横断交易にも従事していた。同じく約10%を占めるフラニ（ブル）人は、アフリカ人の半数以上を占めるニジェール・コンゴ語族の一構成集団なのだが、同族には珍しい遊牧民族で、西のセネガルから出発してサヘル地帯を東進し、チャド湖当りまで分布し、さらに数少ないながらも東の端、紅

資源

ニジェール川沿いでは、コメが生産される。日射量が多いため、川の水を利用した灌漑開発が成功すれば、年2〜3回の米作が可能で、アフリカの食糧難への解決策の一つとして期待される。
それ以外の雨量の少ない南縁地帯での主食作物は、ミレット（シコクビエ）やソルガム（モロコシ）と呼ばれる穀物だ。粒状の収穫物を臼と杵でついて脱穀し、製粉して、湯で練って餅状にして主食とする。

それ以外に、玉ねぎが主要農産物で、隣国に輸出している。サハラ地域にはアイルと呼ばれる山地があり（平均標高500〜900m、最高峰2,022m）、ここは標高のせいで雨量が多少あり、オレンジやブドウといった果物が収穫される。

鉱物資源でまず特筆すべきは、ウラン鉱だ。植民地時代から探査が始まり、一時は輸出額の4分の3を占めるに至った。しかし環境保護・脱原発の世界的な動き、とりわけ2011年の日本での津波による原発事故を受け、世界のウラン需要は減り、ウランに対する依存度は下がっている。

日本もウラン開発に投資していた時期が数十年あったが、やはり日本のエネルギー政策見直しにより数年前に引き上げた。他に鉱山資源として金があり、石油も中国による開発が進み、ベナンの港までのパイプラインが建設中である。

独立後の政治史

ニジェールは、他の多くの元フランス植民地の国々とともに、1960年に独立した。つい最近起きたものを除き、それまで4回の軍事クーデターと4回の軍事政権を経験している。この回数、西アフリカ諸国の中では決して多くはない。そして、クーデターは比較的短時間に終わり、流血事態は少なく、内戦状態には至らなかった。軍事政権も、第1回を除いて比較的短く、1年前後で終わって、民主的選挙により少なくとも名目上は民主政治に復帰してい

る。

10数年前に筆者も経験したクーデター（2010）は、それまでの第4共和制の大統領が、憲法に規定されている上限2期の決まりを破り、多くの反対を押し切って憲法改悪を強行して3期目に移行しようとして画策して、これを阻止するために、これはやクーデターしかないと噂されていた矢先に起きた。クーデターの首班は1年後に選挙を実施して民政に移管することを約束し、それが実行された（2011）。軍が民主主義を守るといふ例は、隣国ナイジェリアを含め、アフリカ諸国で珍しくなく、ニジェールも好事例を示した。

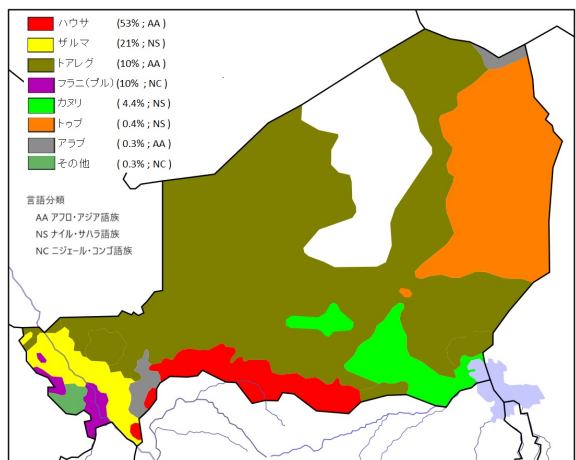
民族対立は、ほぼないといっている。かつてはマリと同様、トアレグ人と中央政府との間に武力紛争があったが（1990〜1995）、両者の和解が成立した。その平和条約調印の日、「国民融和の日」として毎年祝われている。以後トアレグ人も国政に普通に参加し、第5共和制（2011〜2021）で10年間勤めあげた首相は、トアレグ人だった。

今回のクーデター（2023）の背景は、筆者はまだ十分把握できていない。首謀者は政権内の大統領警護隊長だが、政権の親フランス・親欧米の姿勢に対する不満が蹶起の原動力だったとのことだ。反フランス感情からクーデターを支持する市民も相当数おり、しかも彼らはロシアを支持しているのが気になるところだ。マリとブルキナファソはクーデター支持、その他の周辺諸国は反対で、ニジェールを含む経済的に不利な内陸3か国と、港湾を持って貿易の恩恵を受けるそれ以外の国々との間の、西アフリカ内の利害が浮き彫りになってくる。

（次号に続く）



トアレグ人の青年 谷垣静子さんの絵



言語分類	
AA アフロ・アジア語族	
NS ナイル・サハラ語族	
NC ニジェール・コンゴ語族	
ハウサ	(53%; AA)
ザルマ	(21%; NS)
トアレグ	(10%; AA)
フラニ(ブル)	(10%; NC)
カヌリ	(4.4%; NS)
トゥブ	(0.4%; NS)
アラブ	(0.3%; AA)
その他	(0.3%; NC)

第35回 AALA カフェの報告

10月15日(日)

13時30分

「韓国映画を通して私の映画人生」

講師・岸野玲子さん(映画パブリシスト)



岸野さんの話を聞く参加者



日曜日にも関わらず、熱心な映画好きが集まり岸野先生のお話を真剣に聴き、熱い熱気の中、時間の立つのも忘れ様々な質問や感想が飛び出しました。それに岸野さんが気軽にどんどん答えて頂き1時間ほど時間超過のうちには終わりました。

参加者はみんな、映画館に行つて映画を見ようという熱い気持ちになつたようです。

用事があつて15分ばかり遅れた自分が、簡単な報告を書くのもおこがましいのですが、何とか感想めいたものを書かせて頂きます。

報告(堀内保孝)

映画パブリシストというものがどのような、仕事なのかということが少し理解できました。映画を作る人と映画を見る人をつなぐ仕事、こんな映画を創りたいという映画を制作する人々の熱い思いも、このような映画を観たいという人たちに届かなければなりません。

どんなに良い映画でも、こんな素晴らしい映画がありませんよと、観る人に宣伝され、劇場があつてこそ初めて人々は素晴らしい映画と出会うことになり、パブリシストの仕事とは凄いい仕事だと思われ、多くの映画をみて評価できる目を持つ、映画を創る人たちの事をよく知り支援することができると、小さい映画でも、最低1億円の制作費用があること、映画館の経営が成り立たなければならぬことと等など実に広い視野と経験と深い見識のいる仕事です。

釜山国際映画祭というのがあります。1996年に創設され国際映画製作者連盟公認の今に続くアジアを代表する映画祭です。ここで新人の映画監督、映画俳優が発掘される。1994年に「大阪韓国映画祭」を開催し、その事務局をされたことが機縁となり1997年の第2回釜山国際映画祭への参加から先生の映画人生は大きく韓国にシフトされたそうです。毎年行つておられるということで、岸野さんの話は縦横無尽に様々な国際映画祭や日本での映画祭などにも及ぶ。いつ頃から大阪民報で書かれたものを読ませて頂いて楽しみにしていたのですが期待以上に楽しいお話であつたという間に時間が過ぎてしまいました。

最後に「ニチポ」とケンチヤノヨ」という本を買ってサインをして頂きました。「赤毛のアン」にはじまる様々な素晴らしい映画を配給・宣伝することに情熱を注いで来られた著者を通して、国内外の映画祭の追体験をし、多くの作品や人々に出会えます。特に近年の韓国映画の発展ぶりと軌跡をたどることが出来ます。是非この本を手にとって読まれることをお勧めしてこの拙文を終わらせていただきます。

次回 AALA カフェのお知らせ

ミャンマーのたたかい・・・私たちはどう支援を続けるか

軍事クーデターから2年、今も国民への弾圧はやまず、難民は増え続けています

12月10日(日) 13時30分から

場所 大阪AALA事務所

講師 原田 正美さん 奈良AALA会員
大阪大学外国語学部 ビルマ語講師

大阪の未来に夢洲万博・カジノはいらない

「万博・カジノ予定地見学バスツアー」に参加して

尾川 理江

満席の万博予定地
見学バスツアー

キャラクターの「ミヤクミヤク」がテレビ画面で懸命に愛想を振りまいても、一向にワクワクしない関西万博。評価額の談合疑惑、汚染土壌、膨らむ整備費等…。最近ではパビリオン建設の遅れが明らかになり、2025年春の開会が危ぶむ声がかえります。

会場の舞洲は今、どんなことになっているのか。現地を見てみると、10月14日(土)、城北地区大阪関西万博・カジノ予定地見学バスツアー実行委員会主催のバスツアーに参加しました。

大型バスには、ほぼ満席の50余名が乗車。「カジノに反対する大阪連絡会」事務局次長中山直和氏の解説をうかがいながら京橋から

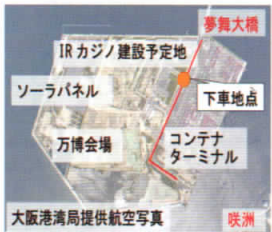


写真1

夢洲に向かいました。

夢舞大橋をわたって 夢洲に到着

40分で万博会場・夢洲に到着。以前は申請を出せば会場予定地にも入れたというのですが、今はコンテナターミナルエリアと万博会場エリアの境界区域にだけ自由に立ち入ることができ(写真1・赤いライン)、工事区域は関係車両のみが通行可能となっています。

夢洲の面積は約390畝。浪速区をワンサイズ小さくした広さです。万博会場予定地はそのうちの約160畝。まだほとんど建物がなく、平らな空地なので車窓からでは様子がわかりずもどかしい思いです。

バスで通行可能な道路をぐるっと一周しました。万博会場工事区域に近づくと、車両入口があり警備員さんが一人おられました。進入するトラックはありません。目をこらすと背の高いクレーンが遠くに何台も見えました。が、動いている様子はありません。

作業事務所なのかプレハブの建物等が数棟見えます。そんな寂しい風景の中、唯一、万博会場らしい建築物は万博会場のシンボル、海外パビリオンをぐるりと囲む予定の「大屋根(リング)」です(写真2)。

完成すれば高さ12m、内径約615メートルの世界最大級の木造建築物となるそうです。見渡したところ2か所で工事がされています。デザインは素敵だと思えますが、そもそも6カ月の万博に大量の木材を使う巨大建造物が必要なのか?発想が今の時代には合わない気がします。



写真2

夢洲は立派に 役立っている

コンテナヤード脇のコンテナ前で下車し、中山氏の解

説を聞きました。網柵の向こうに赤・緑・青、サイコロ型のコンテナが積みまれています。コンテナの駐車場には、熊本、郡山、筑豊、大宮など各地のナンバーをつけた大型トラックが何台も停まっています。

『夢洲は負の遺産』という言葉をよく聞きます。でも、それはまったくのでたらめだと、中山氏が説明してくれました。夢洲は大阪湾の重要な物流コンテナヤードとして、ゴミの最終処分場として、3200世帯分の消費電力を発電するソーラーパネルの設置場所として立派に役立っている。コンテナヤードが手狭で、通常は3段までなのに、5段までコンテナを積み上げたため、台風の際、倒壊してしまっただけで埋めるはずだった区域が万博会場となったため、わざわざ土砂を買い埋め立てるという無駄な工事が行われた。新たなゴミ処分地として夢洲の沖に「新島」が造成されたが、近畿2府4県のプロジェクトであるため、処分費用が有料となり、府民の「ゴミ有料化」につながる懸念がある。さ

らに新島が埋まった後、それ以上の埋立地拡張は、船舶の通行の障害となるためできない。これらの説明は実際に現場を訪れて、よく理解できました。

COSMOTOWER 展望台から

次に夢咲トンネルで咲洲へ。大阪咲洲庁舎の55階展望台から大阪を一望しました。地上252m。360度見渡せる展望台からは、東方向には生駒山、西側には六甲山がうっすら見え、大阪平野全体を感じる事ができます。

眼下に目を移すと、大阪港がひろがっていました。なじみの深い「さんふらわあフェリー」、門司行き「名門大洋フェリー」が静かに出航を待っています。夢洲もはつきりと見えます。

地上にいる時はわからなかったのですが、コンテナターミナルの前には細長いコンテナ船が一隻横付けされていました。夢洲の沖合には新島が確認できました。100円望遠鏡を覗いてみると、



写真3 (手前は咲洲、奥は夢洲)

夢洲の万博会場の奥にソーラーパネルがぎっしり並んでいるのがよく見えました。大小の船舶が次から次と夢洲と咲洲の間を抜けて瀬戸内海にすべり込んでいく様子をみていると大阪が港湾都市であることを実感します(写真3)。

河川の土砂の堆積で造成された大阪平野に、自然と人工の力で造りあげてきた都市—大阪。その歴史を思つと、大阪に対する愛しさが募ります。

—カジノ—Rと関西万博抱き合わせの無理筋。夢洲開発は大阪の未来にはそぐわない、バスツアーに参加してこの思いを強くしました。

常任理事会・理事会のお知らせ

● 11月常任理事会
11月14日(火)
18時〜

■ 第3回理事会
12月19日(火)
18時〜

**パレスチナのハマスとイスラエルとの戦闘
暴力の応酬をやめ、一刻も早く停戦を!**

ハマスの無差別攻撃と民間人の連行は、国際人道法の明白な違反であり、いかなる理由があっても決して許されるものではありません。

しかし、イスラエルがこの間、住民の強制排除をおこないながら国際法違反の入植を拡大し続け、ガザ地区には封鎖と、空爆や侵攻を繰り返してきたという問題が背景にあります。

また、イスラエルの無差別の攻撃は、占領下において保護されるべき人々に対する集団的懲罰であり、正当化できないものです。

残虐な戦争行為は一刻も早く止めるべきです。そのためには、関係各国と国際機関はあらゆる外交努力を行うべきです。

「英語で世界を読む会」

10月の「読む会」は、「Reparations are impossible? The story of Japanese Americans proves otherwise.」という、「ガーディアンズ」の記事をテキストに読みました。太平洋戦争中、日系アメリカ人の強制収容所収監に対する「補償」の問題を扱っています。現在、アメリカ合衆国内の人種差別問題で、アジア系マイノリティの立場は微妙です。「差別是正策:アファーマティブ・アクション」を廃止するのは違憲ではないの判決が出た中で、注目されています。このことについて勉強しました。

○11月例会は
11月28日(火)2:00~4:00
場所は AALA 事務所(JR 玉造駅近く)
テキストは未定で、おこないます。参加希望の方、お知らせいただければ、テキストをお送りします。
連絡先: 安井(Tel: 079-78-5915
mail: pichan5@hotmail.com)

文化欄

川柳

五大陸いくさの火種誰残す
湯布院に米軍基地つくり温浴か
ロシアでは徴兵制で国を捨て
四条畷市 西川 ひろし

自給率明日にも日本飢える危機
紛争地に火に油注ぐ武器供与
軍事ブロックよりも対話が平和呼ぶ
大阪市旭区 近藤 正

大阪AALA へのお願い

会費 月 800 円(年 9,600 円) (25才以下は年 3,000 円) ※入会金 500 円
*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。
*会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪 AALA と日本 AALA の機関紙を郵送いたします



発行	大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA) Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361 E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.coocan.jp/	機関紙・宣伝委員会